新しい働き方。

Kondo Style

DXによる働き方改革と
健康経営の取り組みを体感できる
オフィスツアー実施中！　詳しくはホームページをご覧ください。

DX（デジタルトランスフォーメーション）
企業がビッグデータなどのデータとデジタル技術を活用し、業務プロセスの改編、製品やサービス、ビジネスモデルそのものの変革を図るとともに、組織、企業文化、風土をも改革し、競争上の優位性を確立すること。

当社は、「健康経営優良法人2023
ブライト500（中小規模法人部門）」に
３年連続で認定されました。

2023
健康経営優良法人
Health and productivity
ブライト500

※健康経営優良法人認定制度とは、経済産業省が、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業中小企業等の法人を顕彰する制度です。

Kond　株式会社 近藤商会
函館市西桔梗町589番地　https://www.kond.co.jp

森へ、湖へ。

さわやかな初夏の空気と小鳥たちのさえずり。
可憐な野花や小動物との出会い。湖面を渡る風。
小島を巡る船に乗り、初夏の大沼をお楽しみください。

遊覧船・定期、不定期（島巡り一周コース）
所要時間 30分

【出航時間】
午前／9:00 9:40 10:20 11:00 11:40
午後／12:20 13:00 13:40 14:20 15:00 15:40 16:20
※定期便の他 4・11・12月は不定期便で運航しております。

【料金】
大人/1,320円 小人660円
※大人（中学生以上）小人（6才～12才）
※幼児は大人1名につき1名無料
（団体割引料金）15名様以上
大人1,190円/学生（中学生以上）930円 / 小学生600円
※団体様の運航は不定期便、予約時間の出航となります。

大沼合同遊船株式会社
亀田郡七飯町大沼 1023-1
TEL. 0138-67-2229　FAX.0138-67-3997
E-mail:yusen@onuma-park.com
https://www.onuma-parks.com

Tripadvisor

※函館国際ホテルは、トリップアドバイザーの「最好きが選ぶ！日本人に人気の朝食のおいしいホテル」にて、常に上位に選出されています。

ＪＲ函館駅から徒歩8分。
函館の魅力を満喫できる最高のロケーション

函館国際ホテル

HAKODATE KOKUSAI HOTEL

●宿泊のご予約 0138-23-0591　●ブライダルのお問合せ 0138-23-6161

〒040－0064　北海道函館市大手町5-10　https://www.hakodate-kokusai.jp

CLIP HAKODATE

【クリップ函館】vol.3

2023 5-6
bimonthly

なんと、創刊３号目で誌名変更！ついでに増刷・増ページ。

今どきの「子どもの居場所」。

PERSONS

次世代に引き継ぐという私たちの役割。

高松優子

株式会社西武建設運輸　事務取締役
函館出身。北星学園大学文科卒業後、北海道三菱ふそう自動車販売（株）勤務を経て、現在の会社に入社。大沼トラスト実行委員会メンバー。宅地建物取引士。趣味は歌。

七飯町大沼の2000平方メートルの土地で、地域で昔から栽培されてきた在来種の作物の種子を使い、水やりもせず、肥料も使用しないという自然農法に挑戦。また同時に、地域住民とともに大沼の自然保護活動に取り組む。そんな活動をしているのが「大沼トラスト」だ。そして、高松優子さんはその実行委員会メンバーの一人である。

「大沼トラスト」は、大沼の自然遺産を守ることを目的とし、大沼周辺に居住している、または職場があるなど、理由はさまざまだが何某かの形で大沼にゆかりのある人たちが中心となり、2020年2月に発足した。

函館在住の高松さんだが大沼の環境への思いは深い。「幼い頃、週末に母がよく大沼公園にドライブに連れて行ってくれて、それがとても楽しみでした」と語る高松さん。やがて社会人となり、大沼との関わりは深くなる。きっかけは、自身が取締役を務める会社の仕事上でのこと。北海道への移住をすすめるプロモーションや情報発信を行う「北海道移住交流促進協議会」の活動に、七飯町への移住希望者がお試しで住める「ちょっと暮らし」の提案を持ちかけ、これが移住促進にひと役かうこととなった。その後、2020年1月には、通年でキャンプができるBEYOND VILLAGE（ビヤンドビレッジ）を大沼にオープンさせる。コロナ禍の中、キャンブブームもあって利用者が次々と訪れた。

そうやって大沼との関わりを深めていく中で、大沼周辺の自然の豊かさを再認識するとともに、環境問題への意識も深まっていった。

「私たちの一つ一つの小さな行動が、未来を変える。今の子どもたちに胸を張っていられる大人でありたい」と、子どもたちを対象とした「地球温暖化防止講演会」を主催。環境活動家の谷口たかひさ氏を講師に招き、例えば「なぜ函館でイカの捕獲量が減っているのか？」「なぜ函館で寒ぶりが獲れるのか？」「なぜこの夏、イワシが函館湾に大量に浮いたのか？」といった身近なトピックを通して、地球の温暖化という問題を子どもにも興味を持ってもらえるようにと企画した。

高松さんは今、BEYOND VILLAGEの運営を経験は浅くても意欲のある20代の若者にあえて託し、自身は社内の勤務システムの整備など、若者の力を発揮してもらえる環境作りに力を入れている。また、休日は農園に行き、子どもたちといっしょに作物の収穫をし、育てることや食べることの大切さを伝える。

「私は今、人生の折り返し地点に立っています。今までいろいろと先輩に教えてもらったことを、次世代につなげてゆく役割がこれからなんです。会社のこと、また、人として何ができるかということを考え続け、行動していきたいですね」

大沼トラストの畑で、子どもたちといっしょに大豆の収穫を体験する。初めての作業に子どもたちは大喜びだ。

今どきの「子どもの居場所」について考える。

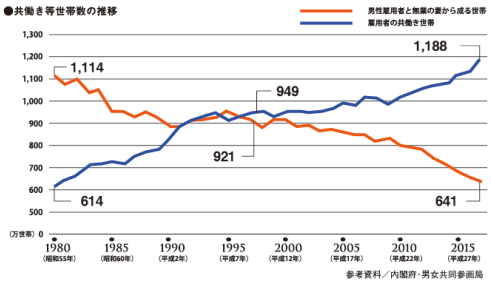
福田琢磨／（一社）みかん箱 社員

『ビッグワンガム』というお菓子をご存知だろうか。お菓子といっても箱の中身は小さなプラモデルが主役で、申し訳程度に板ガムが1枚入った、いわゆる食玩と言われるものだ。たしか小1か小2の頃のこと。私の実家は商店を営んでいたので、商品棚にはチョコやガムやアメ玉など、たくさんのお菓子が並んでいた。そして私は毎日のようにこのビッグワンガムを家からくすねて（万引きして）、近所に暮らす仲良しの友だちシミズくんにあげていた。ある日、シミズくんのお母さんが「いつもありがとうございます」と私の母にお礼を言ったため、事がバレてしまい両親から死ぬほど——。

振り返れば、私の小さい頃の友だちは、多くの家が商売をしていて、本屋、文具屋、電気屋に印刷屋…、ナントカ屋の息子や娘たちだった。放課後は本屋でマンガを立ち読みしたり、文具屋では新しい事務用品を見ては興奮し、たまに買い物をしたりした。洋品店の奥ではご隠居と思しきじい様が、ぼんやりとテレビを眺めていたり、近所の仲間を誘って将棋などを指していた。私はよくその傍らで、何となく友だちと時間を過ごし、時には悪さをして説教されることもあった。そういえば私の祖父も、「水戸黄門」や「大岡越前」といった時代劇を好んで見ていた。自分の老い先はもう短い、みたいなボヤきもよく聞かされた。人生とはそういうものなのかぁ、などと思ったりした記憶がある。

ご多分に漏れず、「福田商店」では店番（父はそれを「番兵」と呼んでいた）をはじめ、家業の手伝いは当たり前。小学生だった私も、店に来るオトナたちを相手にタバコやワンカップを売っていた。生臭い潮の香りを全身にまとい、真っ黒に日焼けした漁師たちが、その場で手に取った焼酎や日本酒のカップのフタをパカリと開け、カウンターの前で飲んで行く。みんなあんなに一気に飲んでいるのだから、さぞかしうまいものに違いない。みたいな勘違いもしていた。

さて、そんな話は約40年も前のこと。『男女共同参画白書』（内閣府男女共同参画局、平成30年版）で調べてみると、1980年の日本国内の共働き世帯は約614万世帯。対して、いわゆる専業主婦のいる世帯（正確には「男性雇用者と無業の妻から成る世帯」）は約1,114万世帯。これが1997年以降、共働き世帯の数が上回ることになる。2017年の共働き世帯は1,188万世帯。対する専業主婦のいる世帯は641万世帯。見事なまでの逆転と言っていいだろう。この変化を肌で感じたのは私だけではないはずだ。まず、個人商店が劇的に少なくなり、代わりにコンビニになった。たとえその家の子どもであっても、小学生にコンビニの手伝いをさせるわけにはいかない。同様に本屋、文具屋、電気屋に印刷屋…、ナントカ屋のほとんどが、チェーン店またはオンラインショップに置き換わり、自営業者の立場の多くが「勤め人」となった。ということで、放課後の居場所だった友だちの店に行くことも減り、自宅兼店舗のにいたじい様の姿も見なくなり、働くオトナの背中を見ることはほとんどなくなった。余談ではあるが、高2の冬、我が「福田商店」もコンビニになった。何人かの同級生が時給制で働く姿を横目にレジ打ちをしながら、胸中で複雑なものを感じていた。



参考資料／内閣府・男女共同参画局

●

さて、そこで思うのだ。じゃあ今どきの子どもって、どこで過ごしているんだろう。そしてどんな体験をしているんだろう。友だちと思いっきり騒いで、ケンカして、たくさん失敗をして、その辺のオトナから叱られ、やがて立ち直るといった経験を、ちゃんとしているのだろうか。

放課後に限っていえば、子どもの居場所にはまず「学童保育」がある。放課後児童クラブとかいろいろな呼び方があるので、なじみがないというか、あまりよく知らないという方も多いのではないだろうか。私も大学のために函館にきて、初めてその存在をサークル活動の中で知ったくらいだ。むしろ「児童館」の方がよく知られているだろうか。これなら実家の近所にあった（けど、入ったこともないし、何をするところかも知らなかった）。

もちろん、習い事をして過ごしている子どもも多いと思う。聞くところによれば、月曜は英会話、火曜はピアノ、水曜は水泳、と毎日のように通う子どももいるらしく、これはオトナより忙しそう…。ほかにも、小学校が放課後の教室を使って行う学習支援事業、地域のスポーツ少年団、フリースクール、最近では「子ども食堂」などがあり、選択肢がいろいろあると思う。

こうした「居場所」に共通して言えるのは、公私で言えば公、つまりパブリックであるということ。少なくとも、家業の手伝いとか、友だちの店にたむろするとか、そういう何だかよく分からない時間ではない、と説明した方が伝わるだろうか。

パブリックな時間を過ごすのは、オトナでも疲れるので、子どもならもっと疲れるはず。なので、たまに訪れる共働き世帯の休日は、親はもちろん子どもも疲れ切っている、ということになる。みんな疲れ切っているこの休日に、子どものために何か貴重な体験をと無理して出かけるより、むしろ体力の回復に努める方がよいかもしれない、と私なんかは思ってしまう。

核家族化はもちろんのこと、いわゆるひとり親世帯も、生活困窮世帯も、40年前に比べればずいぶん増えている。こういう社会になってしまったので、仮に子どもが課題や問題（態度がなってないとか、学習が遅れているとか、ネット動画ばかり観ているとか）を抱えたとき、私たちが子どもだった頃の感覚で、それは本人の努力や根性が足りないとか、親のしつけの問題だとか、そういう片づけ方をするとうまくいかなかったりする。昔の当たり前が、今どきの当たり前ではなくなったのだから、それは仕方ない。子どもに関わるオトナの感覚もまた、アップデートが求められているということになる。

じゃあこれからどうすりゃいいのか。

その答えが分かれば苦労はないのだが、なんとなく提案できるとすれば、ひとつでもふたつでも、“あいまいな場所”があればいいのかな、と。それは、将棋を指すじい様の傍らのような、ほったらかされているがちゃんと見守られているような、そんな時間と空間なのかも知れない。

「そもそも生き甲斐の獲得や生きる意欲にかかわる側面は、人々がインフォーマルに出会いふれあい交流し、楽しさと親密さを獲得しながら、共に歓びや悲しみ、痛みを分かち合う共感の世界によって支えられている。それはいわば完全なプライベートでもなくパブリックでもないインフォーマルな共の世界（縁側的な中間領域）といっていい。」と論じたのが、駒澤大学の萩原健次郎教授。（若者の居場所から若者政策を考える」「社会教育」2018年10月号、日本青年館）

函館には放課後児童クラブ、児童館といった児童福祉施設をはじめ、公共・民間の施設がいろいろある。そういう場所で、私たちオトナが「インフォーマルな共の世界」をどれだけ仕掛けられるか、演出できるか。そこにカギがあるような気がする。「失敗して、怒られて、でも許してもらって、また挑戦する。先生でも親でもないオトナがいる。何だかよく分からないヒトがいる。偶然の体験がある。レールから外れた学びがある。社会につながっている。待ちきれないような明日が来る」こんなキーワードを並べて、今どきの「子どもの居場所」について考え続けている。というか、子どもには居場所が必要、という当たり前のことを、改めて声に出さなければならない。今はそんな状況なのかと、複雑な思いに駆られてしまう。

●
●

最後に少し宣伝。私が所属する一般社団法人みかん箱は、今年度から日本財団「子ども第三の居場所」拠点の開設事業に取りかかる。わざわざ「第三の」と断りが入っている訳は何かと考えると、今回この場を借りて述べたようなことではないかと、私なりに解釈している。まずは開設事業を無事に終わらせて、その拠点ができたあかつきには、よく分からないけどほっとする、そんな居場所を演出できないかと目論んでいる。

その仲間はいずれ募ることに。そのときは、ぜひ、お力を。

写真提供／みかん箱
イラストレーション／中村奈珠

行政あるいはNPOなどが運営する「子どもの居場所」。

学童保育

●児童福祉法に基づき厚生労働省が所管するもので、「日中保護者が家庭にいない小学生の児童（＝学童）に対し、授業の終了後に適切な遊びや生活の場を与え、児童の健全な育成を図る保育事業」とある。「放課後児童クラブ」、「学童クラブ」、「学童保育所」など、自治体や設置者によって名称、またその機能も異なる。全国的に共通するのは「保護者の帰宅・お迎えまでの間の児童の健康管理・安全確保」「適切な遊びや活動の提供」「おやつの提供」などの他、「宿題など自主学習の場の提供」も。

児童館

●児童館は「児童（0歳～17歳の子ども）に健全な遊びを与え、その健康を増進し、または情操を豊かにすることを目的として設置される屋内型児童厚生施設」とのこと。その機能によって集会室、遊戯室、図書室、静養室のほか、育成室、相談室、創作活動室、パソコン室などが設けられており、専門の指導員によって指導が行われる。学童保育との大きな違いは、学童保育は申請により登録された児童が利用する場であり、それに対し、児童館は児童が自由に来館して遊ぶことができる。同じ施設内に設置されている場合もあるが、場所や活動内容は分けられている。

学習支援

●学校教育を何らかの理由で学ぶことのできない、また経済的な事情等により学習塾などに通えない子どもたちに、学習や教育の支援を行う制度。厚生労働省、文部科学省双方で実施されているが、最も存在感があるのが生活困窮者自立支援制度に基づいた「学習支援」。2005年から生活保護受給者の「自立支援プログラム」のひとつとし制度化された。その後、2009年に「子どもの健全育成事業」のひとつとして小中高生を対象とした学習支援が制度化され、さらに2010年からは「生活保護自立支援事業」、2011年には「社会的な居場所づくり支援事業」として再編されていった。

フリースクール

●不登校の小中高生が学校以外で学んだり友達と過ごしたりできる場所。公的な機関ではなく、個人や民間企業、NPO法人によって運営されている。規模や形態、活動内容はさまざま。おもな特徴としては、入学資格を設けていないこと、異なる年齢の子どもが集まり、決まったカリキュラムがないことなどがあげられる。小中学生の場合、学校に籍を置いたままフリースクールを利用することになる。小中学生ともに在籍校の校長が認めた場合は、フリースクールへの登校が在籍する学校の「出席扱い」になる。

子ども食堂

●生活困窮世帯、ひとり親世帯の増加により、近年子どもの貧困が問題視されている。これを背景に、子ども1人でも参加でき、食事を無料または低価格で提供しているのが「子ども食堂」。2012年、東京都大田区の商店主が日本初の子ども食堂をオープンし、その活動はやがて全国へと広がった。行政の支援を受ける場合もあるが、基本的にはNPOなどの民間が運営する。食事提供の他にも、支援が必要な子どもに向けて、孤食の解消や食育などにも力を入れている。「NPO法人全国子ども食堂支援センター むすびえ」によると、子ども食堂の数は2021年時点で6,000ヵ所以上にのぼる。

PROFILE

北海道横室市出身。函館市在住。北海道教育大学大学院教育学研究科の修士課程を修了。ひのき屋のパン下活動を経て、放課後学童クラブ、はこだて国際民俗芸術祭、学びのサポート塾みかん箱の運営など、いいアイディアをかたちにするための仕事に取り組んでいる。放課後児童支援員その他の資格あり。
https://linktr.ee/fukudatakuma

一般社団法人みかん箱
2022年設立。2023年4月から日本財団「子ども第三の居場所」コミュニティモデル開設事業の一環として、末広町にあるカルチャーセンター臥牛館の改修を行うこと、そして2024年から拠点の運営事業の開始を目指している。株式会社ヒトココチによる学びのサポート塾「みかん箱」を通じた学習支援事業も引き続く予定。 https://mikanbako.info

C O L U M N
海外の「子どもの居場所」事情。

【アメリカの場合】

●**伊東多衣子**／アメリカ・インディアナ州在住後、現在は東京在住

米国では州により多少の違いはあるが、13歳になりティーンネイジャーとなるまでは、保護者の監視が義務付けられている。日本では当たり前の「鍵っ子」は存在せず、いわゆる「お留守番」や「おつかい」、子どもだけの公園遊びなどは「違法」であり見つかり次第、子どもは保護され、親は逮捕されてしまう。そのため、学校も習い事もスクールバス、もしくは付添人による送り迎えが必要であり、親が働いている場合は近所の友達の家や高校生のベビーシッターとともに自宅で過ごすというのが一般的だ。

【スウェーデンの場合】

●**仲村真里奈**／スウェーデン・エスキルストゥーナ在住

放課後は学童に行き、親が迎えに行くまで友達と過ごすことが多い。夏の天気が良い日には、湖に泳ぎに行ったり、ツリーハウスを作ったり、砂場で遊んだりと、外で過ごす時間が必然的に長くなる。室内では、卓球、トランプ、レゴ、お絵描き、粘土などで遊ぶ。最近は携帯で動画を見たり、ダウンロードしたゲームで遊んだりする子どもたちも多い。また放課後に習い事にいく子たちも少なくはなく、水泳やダンス、体操などさまざまな習い事に通っている。

【インドネシアの場合】

●**Pinkie Anggia**（ピンキー アンギア）／インドネシア出身、函館在住

地域によって異なる。ジャカルタでは、多くの子どもたちは学校が終わったら友達の家でゲームをしたり、お菓子を食べたり、おしゃべりをして時間を過ごす。一方、地方の小さい町や村では、住民の大半がイスラム教徒であるため、学校から帰ってきた子どもたちは、Madrasahと言われるコーランを勉強する塾のようなところへ毎日通う。ここではコーランの読み方、書き方、意味を教えてくれる先生がいて、みんなで勉強をうする。それが終わったら公園や広場でサッカーなどをしたり、木登り、川遊びなどをすることが多い。

【韓国の場合】

●**申 東煥**（シンドンファン）／韓国・高陽市出身、函館在住

韓国の小学生の多くは、学院（日本の塾にあたるところ）に行き、英語、数学、国語、テコンドーなどを習う。ほとんどの学院で送迎があり、親は送り迎えする必要はない。また、放課後教室と言って、学童保育に似ているものもある。放課後教室は学校内で運営されている。地域や学校、学年などにより内容は異なるが、数学、科学教室、算盤など、授業で習っていないことを学習する。小学1～2年生を対象にした「世話教室」という場では、レゴやパズルなどで遊んだりもする。

【エジプトの場合】

●**Ahmed Salem**（アハメド サリム）／エジプト・カイロ出身・函館在住

エジプトのカイロでは、子どもたちの居場所はそれぞれの家庭の生活水準によって異なる。放課後、プライベートクラブと呼ばれるスポーツクラブで、スポーツをして楽しむ子どもたちもいる。これは会員制で年会費が必要。この施設はとても大きく、バスケットコート、サッカーグランド、プールなどの施設が整っている。またこれとは別に、無料のスポーツセンターでスポーツをしたり、路地や家の前の広場で友達とボール遊びなどをして過ごす子どももいる。

【フィリピンの場合】

●**Rgee Gallega**（アルギィ ガレーガ）／フィリピン出身・函館在住

フィリピンの子どもたちは、放課後、屋外で遊ぶのが一般的。屋外というのは路上やちょっとした広場であって、整備された公園や施設ではない。また、子どもたちにはバスケットやバトミントンが人気があり、街のいたるところにバスケットゴールが設置されているので、いつでもそこで友達と遊べたりする。スポーツがあまり得意ではない子どもたちは、小さな小屋に旧式のパソコンが何台も置かれたネットカフェが放課後の居場所だったりする。ここは、低料金でインターネットを楽しめるので子どもたちに人気がある。

【台湾の場合】

●**陳 玫秀**（チン メイ シュウ）／台湾・高雄市出身・七飯町在住

台湾は共働き夫婦が多いので、放課後、部活やクラブ活動でスポーツをしている生徒は非常に少なく感じる。親が働いている子ども達は、学校が終わると、安親班と言われる学童システムのような所で過ごす。安親班の先生が学校に迎えに来て、同じ安親班の子ども達は先生といっしょに下校して安親班へと向かう。学校が半日の日は、安親班で昼食もとる。

日本人が気づかない日本のサブカルの魅力を外国人に教わるというなんとも複雑な話。

夏井俊介／夏井珈琲・店主

これまでの数年間、少なく見積もっても2千人以上の海外の友人たちと本を通してコミュニケーションをとってきました。そして彼らとのやりとりから、日本ではあまり知られていなかったり、評価されずに埋もれていた日本のアーティストたちの業績を再発見することができました。中には世界の第一線で活躍している欧米のアーティストやブランドのクリエイターたちが、意外な形で日本のサブカルチャーを取り入れて自分たちの作品に反映させていることも少なくありません。彼らから学んだ日本人が生み出してきた表現の面白さを、主に本を媒介にして連載していきます。好奇心は食材と同じように鮮度が大切です。そこで、選書の基準や構成は特に設けず、この原稿を書くタイミングでやってきた新鮮な本やアーティストを紹介していこうと思います。

さて、1回目は建築家 黒川紀章の本を紹介。惜しくも老朽化によって解体されてしまった中銀カプセルタワー（※1）は日本モダニズムを代表する建築の一つでした。1970年に美術出版社から発行された「黒川紀章の作品」はデザイナーの粟津潔によってディレクションされたとんでもなくカッコいいビジュアルブック。この作品集にはオノ・ヨーコの最初の夫でありフルクサスのメンバーであった音楽家一柳慧によるメタボリズム宣言の7インチレコードも付属しています。世界に類をみない日本発の建築運動であるメタボリズムの理念が、視覚を通して直感的に表現されています。昨年2022年には、この本を基点として構成された黒川紀章の展示がLAのギャラリーで開催され、注目を集めました。

CAPSULE／黒川紀章の作品
中銀カプセルタワービルの住戸をメタボリズム運動に関連する建築作品・評論・作品ディスクなどを収録。

（※1）1972年、東京都中央区銀座に竣工した黒川の作品。「メタボリズム」という建築思想を具現化した建物は世界的にも有名。直方体の部屋に大きな丸窓がある「カプセルユニット」が特徴。昨年惜しまれながら解体された。

PROFILE
群馬県生まれ函館育ち。趣味が高じて本のコレクターやアーティストたちの相談役として、日々新しい情報を発信している。

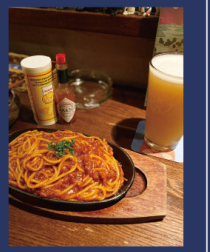
マダム・ヨーコの食べても食べても、明日が見えない。

平野陽子／フリーライター

4月某日、急性胃腸炎で点滴を受けていました。原因は食べ過ぎです。札幌でどうしても食べたかった、とある寿司屋の刺身と握りをひとしきり食べたあとに、これまたどうしても食べたかった、とあるビアバブのスパゲティ。をたぶんイケると思って食べたら、お腹が物理的に壊れるというくらいパンパンになりました。そしてその2日後、春の陽気に誘われて明るいうちから自宅でワインを開けたら、それが引き金になったんだと思います。札幌でのダメージを引きずっていた胃と腸が、もうやめろと、もうやめてくれと、叫び出したわけです。しかも、そうして胃腸炎を発症した日の夜は、森町から函館に移転してきた、これまたとある寿司屋に、夫と母夫婦と行く予定でした。しかし、発熱と嘔吐の予感、断続的な胃痛を抱えた体ではとても行くことができず、その日は甥っ子に私の代打を頼みました。昨年11月から予約して、楽しみに楽しみにしていた寿司です。予約時点では知りませんでしたが、移転後に値上げして一人23,200円の超セレブ寿司になっていた寿司です。みんな、おいしかったって言ってました。23,200円。思春期でいつもは仏頂面の甥ですらニコニコしていました。

それで、本題はここからなんですが、そうして病院で点滴を受けたその日、連載のオファーをもらっていたこの媒体のラフが届きました。「ラフ」というのは、文字数はこのくらい、写真はここ、プロフィールはここだよ、等の指示を伝える紙媒体制作時の地図のようなもので、こちらはそれを目安に原稿などの素材を用意します。で、オファー時「食べもの関係のことを書こうかな」と言ってはいたんですが、そのラフに仮で入っていたタイトルを見て、私は大変うれしくなってしまいました。なぜって【食べても食べても明日が見えない】、その時の我が身の愚かで情けない状況にあまりに当てはまっていたからです。

というわけで、いつか明日が見えるまで、煩悩まみれの生きざまと尽きない食欲を綴っていきたいと思います。



札幌で食べた、とあるビアバブの名物スパゲティ。長野県生まれのI－PAといただきました。

PROFILE
函館生まれ。食べることと同様に大らないことにも真摯で、ダイエッターとしての闘いも長い。
Twitter／hi_ra_no_45

新・バカの大足 マヌケの小足。ちょうどいいのが俺の足。

——中村ひでのり

今の日本では、地方の小さな町でも外国人を見かけることも珍しいことではないが、私の子どもの頃は、「ガイジン」なんてTVや映画の中でしかほぼ目にすることがなく、ごく稀に遭遇することがあったりすると、それはもう大事件だった。

なんとか記憶を辿れる3、4歳の時には我が家にもTVはあったが、もちろんそれは白黒で、映りが悪くなるとその度にバチンとど叩いて直して（？）いた時代だ。私が「これは日本人ではないのだな」と認識して初めて目撃した外国人は、「じゃじゃ馬億万長者」とか「奥様は魔女」といったアメリカのTVドラマに登場する俳優たちと、プロレス中継でジャイアント馬場にバンチを浴びせる悪役レスラーたちだった。思えば彼らは白人で、体も大きく、肌の色も髪の毛の色も自分たちとは違う。それはウルトラマンに出てくる宇宙人と同じくらいの距離を感じさせる存在だった。小学校低学年の夏休み、親に手をひかれ大門の棒ニデパートの辺りを歩いている時に、生まれて初めて“ナマ”の外国人を目撃した。もちろん国籍なんてわからなかったが、白人の家族連れ。小さな女の子のこの世のものとは思えない、まるで人形のような可愛さは今でも忘れられない。あの衝撃は、後にネパールで野性のサイに遭遇した時のものに匹敵するほどだ。それは、ズボンの膝に継ぎを当て、シャツの袖で鼻水を拭っていた自分とは明らかに違う生き物に思えた。

時は流れ、社会人になってからアメリカ人の友人ができ、いっしょに旅行をし、旅先でケンカもするような仲になった。彼の家族とも付き合いが始まった。奥さんのナンシーも娘のステファニーも、あの時大門で出会った女の子のように、栗色の髪で青い瞳のきれいな女性たちだが、もうあの時の衝撃はなかった。サッポロ一番味噌ラーメンが大好物で、アクビもすれば愚痴も言う。ホンネとタテマエもしっかりある。もちろん見かけは私と全く異なるが、違う生き物ではないと確信した時、「これで俺も一皮剥けた」と思ったのだった。

PROFILE
北斗市（旧大野町）生まれ。東京でデザイン・編集の仕事をし、40歳の時にUターンして救急活を起業。10年ほど前からまた元の仕事にも手を出し始める。

女のカラダノート

Women's health and illness

（新垣先生が婦人科に関するお悩みにお応えします）

新垣加奈／産婦人科医

Q そもそも産婦人科って行きにくい！妊婦さんしか行けないイメージっていうか、行ったら妊娠してると思われそうっていうか…。こんなふうに思うの私だけですか？（10代女性）

A いえいえ、そんな風に感じるのはあなただけじゃないですよ。年代に関係なく、あなたと同じ意見の女性は大勢います。『産婦人科』の「婦人科」は妊婦さん以外の女性が対象だし、相談したい時は気軽に受診してほしいのに、皆さん「産」のイメージが強すぎて行きにくいって。でも「産」がなくて「婦人科」だけならいいかと言うと、10代女子は「婦人」じゃないから、やっぱり行きたくないそうで。何かもっと、みんなが来たくなる素敵な言い方ないかしら？ちなみに私が診ている患者さんは幼児から90代まで年齢が幅広く、小中高生の受診も多いです。相談内容は生理痛、月経前症候群などの生理関係が一番多く、他に更年期の体調不良、外陰部の症状（おりもの・かゆみ）など。『産婦人科に行く＝妊娠』としか考えない人がいるかわからないけど、知らない誰かがどう思うかより、相談したいあなたの気持ちが一番大事。どうか気軽に受診して下さいね。

Q 娘が子宮頸がんワクチンの対象年齢なのですが、以前報道もされていた副反応が不安です。先生の考えを教えて下さい。

A 結論から言うと子宮頸がんワクチンは安全です。子宮頸がんはヒトパピローマウイルスが性行為によって子宮に感染し起こるガンで、2020年の1年間に世界で34万人、日本で2887人の女性の命を奪っています。出産育児を行う若い世代が亡くなることも多く、マザーキラーと呼ばれることも。この憎きがんを防ぐワクチンは、ウイルス感染を予防し、がんの発症を8-9割も減らす素晴らしい方法ですが、以前ワクチンの副反応が報道されたために接種しない女性が多くなってしまいました。実は、副反応とされた様々な症状は、それらが本当にワクチンに原因があるのか十分検証される前に報道されました。のちに真偽を解明すべく名古屋で行われた3万人対象の大規模調査で、ワクチン接種群と非接種群で症状の有病率に差がなく、症状はワクチンが原因ではないことが証明され、厚生労働省がワクチンの接種を再び推奨してくれることになりました。WHO(世界保健機構)もワクチンは安全と明言しており、接種時の気分不快やストレス反応は時折見られるものの、重大なアレルギー反応は100万人中1.7人と非常に少ないと発表しています。ウイルス感染は最初の性行為でも高確率に起こるため、性行為を行う前のワクチン接種が最重要です。また、対象は小6～高1女子ですが、できるだけ若い年齢での接種が効果的なので、私の娘には小6になってすぐに接種をしました。娘の子宮を頸がんから守る、これも親の努めだと思います。

PROFILE
函館市生まれ。北大医学部卒。麻酔科を経験したのち産婦人科に転科。「幸せな女性が増えれば世界はもっと平和になる」をモットーに、市内の病院にて、日々真摯に診察に取り組む。2024年春、自身のクリニックを開業予定。

MY HOMETOWN

オーストラリア・マーガレット・リバー

Adam Smith

アダム・スミス

●マイホームタウン／私の故郷

ワインとサーフィンの街、マーガレット・リバー。オーストラリア西海岸に位置する小さな街だが、高品質なワインと世界クラスの波を求めて、多くの観光客が訪れる。スミスさんは14歳から暮らしたこの街をホームタウンだと考えている。

少年期のスミスさんにとって、引っ越しは珍しいことではなかった。父はワイン製造の仕事をしており、キャリアアップのため、有名ワイナリーで数年働き、また次のワイナリーで修行を積むという生活を送っていたからだ。

そんな中、1年2カ月におよぶ家族でのオーストラリア1周旅行の後、両親はマーガレット・リバーへの移住を決断した。今でこそオーストラリア有数の銘醸地だが、一家が移住した1980年代はまだそうした状況にはなかった。先見の明があったのだろう。この土地で、彼の父はついにワイナリーを経営する夢を叶えた。

スミスさん自身も「夏休みはビーチカフェでアルバイトをしながら、サーフィン三昧」という青春映画のような時を過ごした。サーフィンは自然の力を利用するスポーツだが、マーガレット・リバーの波からは、いつも強いエネルギーを感じていたと語る。

「故郷」とは、思い出の土地、精神的な拠り所といった意味もある。様々な土地で暮らし、旅をしてきたスミスさんが「故郷」と位置付けるマーガレット・リバーは大きな魅力にあふれている。（取材／編集部・松田）

DATA
【マーガレットリバー】
西オーストラリア州の南西部にある自然豊かな町。州都パースから南に300キロほど。世界的にも有名なワインの産地であるとともに、海岸に押し寄せる波は世界のサーファーが憧れるサーフィンのメッカとしても有名。また、6月から12月はホエールウォッチングを目的に多くの観光客も訪れる。

現在の町の中心街。夏場は観光客でにぎわうが、信号はまだないという。

1987年秋、父のワイナリーでブドウを収穫する様子。

サーフィンの世界大会も開催されるマーガレット・リバーの海。

Adam Smith
PROFILE
2002年来函。公立はこだて未来大学准教授。コミュニケーション、バーチャル英語プログラム（VEP）などを教える。20代の頃には世界一周の旅を経験。

●子どもも大人も楽しめる絵本。

『いろいろ いろんな かぞくの ほん』

文／メアリー・ホフマン　絵／ロス・アスクィス
訳／杉本詠美　出版社／少年写真新聞社

令和の時代にサザエさんみたいな家族なんていない、とは言い切れない。家族のあり方はだれかに否定されるものでも肯定されるものでもない。ただ、ときどき違ってときどき同じなだけ。そんなバリエーションを知るだけで、優越感や劣等感、あるいは羨望や嫉妬なんてものは、いつの間にかなくなっていくのではないだろうか。家族構成、住むところ、学校、仕事、休みの日、食べもの、お祝いごと、趣味、気持ち・・・。そこには想像以上のバリエーションがある。この本では、ひとり親やLGBTQ、不登校などもさらりと紹介されている。

みんな違ってみんないい。よくない時は「助けて」の声があげられやすくなるように、「助けなきゃ」と周りが気づけるように、違うことに引け目を感じて隠すのではなく、違って当たり前の社会になればいい。

そんな多様性が、やさしい絵柄で描かれているイギリス生まれの絵本。『かぞくのかたちはいろいろ。くらしかたもいろいろ。きみのかぞくとにてるところはあるかな？』（編集部・櫻坂）

●編集部が街で見つけたちょっといいモノ。

日系ブラジル人が栽培したドライ・オン・ツリーの珈琲豆。

世界一の珈琲生産国であるブラジル。その珈琲の歴史は日本と深い関わりがある。1900年代、日本から多くの移民がブラジルに渡り、珈琲栽培に従事。現地の珈琲産業は彼ら勤勉な日本人移民によって支えられ、大きく発展することとなった。『トミオフクダ ブルボン』はその名の通り、日系2世福田富男氏の経営するバウ農園で生産されたもの。『ドライ・オン・ツリー』と呼ばれる、樹上で完全乾燥させた、完熟した珈琲の実だけを収穫するという方法で、濃厚なコクと甘味、熟した果実のような風味の豆が出来上がるという。函館地域交流まちづくりセンター1F『cafe Drip Drop』でこの豆を手に入れることができる。

『トミオフクダ ブルボン』
100g ￥630（税込）
※品切れの場合もあるので、購入の際は事前に予約を。

Wander & wonder

●散歩・散策から思い巡らす過去・現在・そして未来。

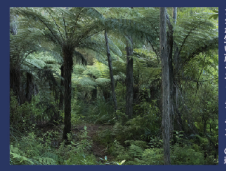
——谷川真弓子

第❶話 巡る「彼の地の森」。

白金の　森に過ごせし　六年間
彼の地の森を　夢見て去りぬ

これは高校卒業アルバムの中で詠んだ短歌。私が過ごした中学高校は白金の「森」が少し残る場所にあり、当時の「彼の地」は卒業式1週間後に向かうニュージーランドだった。高校1年生のホームステイプログラムで恋に落ちたニュージーランド。『ここで暮らしてみたい』と思い、留学を選んだ。主な理由は「自然」、「環境」について学べることだった。実習が多い大学、教育大学では、「日本同様縦に長い島国」とよく言われるニュージーランドの、南北全く違う森の様相も充分に体験することができた。教育大学3回目の実習では、オーストラリアのマングローブ林で、泥んこになりながら、馴染みのなかったマングローブの独特な生態系も学んだ。

そして卒業後、北海道・阿寒の森で働くことになった。「シンコウコンコウリン（針広混交林）?!」。漢字の文化に頭を戻しながら、「北海道のマツ」や林床植物について学び、それはその後、すっかり見慣れた風景の一つになった。



シダが生い茂るニュージーランドの森。

杉の枯れ枝から顔をだすシダの芽生え（函館山）

数年前、函館山を歩いて巡ったとき、初めて訪れたはずの場所なのに、なぜか懐かしい感覚に襲われた。しばらくして、それはシダのせいだとわかった。ニュージーランドでよく見ていたシダがある森。北海道の他の地域にはほとんどない、シダの緑が豊かな函館山の森に親近感を覚えたのである。

この数年間、新たな「夢見る彼の地」であった函館に、今春移り住むこととなった。函館・道南の四季の移ろいを感じながら、この地域の自然環境やそれに関わる人々のことを学んでいきたい。

PROFILE
東京都生まれ。高校卒業後、ニュージーランドへ渡り、リンカーン大学にて国立公園管理学、クライストチャーチ教育大学にて中等教育教職課程を修了。帰国後、NPO法人、大学・研究機関等にて環境教育、生態学研究に携わる。2023年5月からHIFスタッフ。

●函館に暮らす外国人に聞いた「故郷の味」。

「ナシゴレン」

Pinkie Anggia（ピンキー アンギア）／インドネシア・バレンバン

インドネシアでもっとも人気のある料理、「ナシゴレン」。インドネシア語・マレー語でチャーハンを意味する。これは中国からの移民によってもたらされたもの。ご飯とエシャロット、ニンニク、チリソース、卵、細切れの鶏肉、青野菜などをいっしょに炒め「ケチャップマニス」という黒い色の甘い醤油で味付けをする。ジャカルタでは、「カキ・リマ」と呼ばれる屋台でよく販売されている。私の故郷、スマトラ島南部の街バレンバンでは、家の近所にナシゴレンを売る四輪馬車の屋台がやって来て、よく利用していた。バレンバンでは、「ケンプラン」というクラッカーといっしょに食べるのが一般的だ。

日本で一般的な目玉焼きをのせたものは「現地ではナシゴレン・スペシャル」と呼ばれる。ナシゴレンは2014年、インドネシア観光省が「国民の5つの国民食の1つ」に認定された。

I N F O R M A T I O N

HIFの留学生とコラボできる学校・企業・団体募集中。

●第37回日本語日本文化講座夏期セミナー（JJ）

6/10～8/5の約２か月間、北米の大学で日本語を勉強している学生20名が函館で過ごします。今回はコロナ禍を経て４年ぶりの対面開催です。平日の午前中はHIFで日本語のクラスを受け、午後は課外活動や自由研究の時間となります。

この午後の時間を活用し、「地域密着」「学び合い」をテーマに、留学生との交流の機会を持っていただける企業や団体を募集しています。過去には、学校やケアハウスへの訪問、町内会とのごみ拾い、港まつりのイカ語りや高校の部活動への参加など、地域のみなさまのご協力のもと、楽しく有意義な時間を持つことができました。

港まつりのパレードではイカ語りに参加。

（左）高校の部活に参加し、しおじめての弓道体験。（下）蕎麦打ち体験では、慣れない手つきでそば切りにも挑戦。

これは留学生にとって、日本の文化・習慣に触れ、理解を深めるための格好の場となるはずです。彼らが函館で得たかけがえのない経験は、いつまでも彼らの記憶に残り、自国の家族・友人・後輩、さらには大学や地域に伝えられていくでしょう。もちろん、受け入れる側にとっても貴重な体験になると思います。留学生を通して世界にHAKODATEを発信しましょう。

5月末までにHIFまでお問い合わせください。
TEL／0138-22-0770
E-mail：jj@hif.or.jp

函館に住んでいる外国の方向けの相談窓口です。

●函館市外国人生活相談窓口

現在、函館で生活する外国人の数は増加傾向にあります。そこで、彼らが抱えるさまざまな悩み、たとえば在留手続、仕事のこと、病院、税金、年金、出産、子育て、子どもの教育、災害、住宅、結婚、離婚、DVなど、慣れない土地での生活の中で、困ったことやわからないことがあった場合に相談できる場として、函館市は「外国人生活相談窓口」を開設しています。これはHIFが委託を受け運営しているもの。相談員は、日本語・中国語・英語で対応します。テレビ電話・電話通訳サービスを使って、ほかの言語でも相談できます。周囲に相談を必要としていそうな外国人の方がいる場合は、この窓口の存在を伝えていただきたいと思います。誰もが安心して暮らせるまちづくりのために、ぜひご協力ください。また、FacebookとWeChatでは、生活に必要な情報を複数言語で発信しています。

【相談窓口のスタッフ】

陳 玫秀（チン メイ シュウ）台湾出身　Pinkie Anggia（ピンキー・アンギア）インドネシア出身　馬麗（マー・リー）中国出身

「函館市外国人生活相談窓口」
住所：函館市元町14-1（HIF内）
TEL／0138-86-6065
E-mail：hakodatelife@hif.or.jp

Facebook　QRコード　WeChat　QRコード

日本語を通じて新しい世界を知る。

櫻坂麻規子
HIFスタッフ・日本語講師

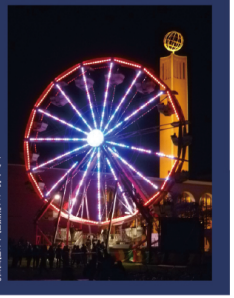
アメリカの大学で働いていたある日、仕事を終えキャンパスを歩いていると、突然いつもと違う光景が目の前に現れました。何もないはずのところにそびえ立つ一台の観覧車。

それと時を同じくして起きた不可解な出来事が二つ。一つ目は、キャンパスにある「トロイの騎士」ぐるぐる事件。大学のシンボルでもあるこの像が銀色のテープでぐるぐる巻きにされ、まるでミイラ状態に。・・・だれかのイタズラ？

二つ目は、クマのぬいぐるみ引きずり事件。普段ぬいぐるみに興味もなさそうな学生が、リードにつないだ犬を散歩させているように、クマのぬいぐるみに紐をつけて散歩・・・いや、引きずっていました。無残にも、引きずられたクマは泥まみれとなりボロボロに。

共通しているのは「アメリカン・フットボール」。同じ州にあるライバル大学との試合が近づいていたんです。観覧車は、その前夜祭のために設置されたもの。試合を盛り上げるべく、たくさんの学生が列をなしていました。そして、クマのぬいぐるみは相手大学のマスコット。あえて乱暴に扱うことで、「打ち負かしてやる」という意思を示していたんだと思います。反対に、ミイラとなった「トロイの騎士」はイタズラではなく、むしろ愛する自分たちのマスコットを相手大学の攻撃から守るためだったのです。

練習や試合で忙しい大学のアメフト選手が、課題の多い日本語クラスを取ることはほとんどありません。でも同じキャンパスにいると、このような形でアメフトを感じられます。


キャンパスに突然現れた観覧車。

PROFILE
旭川出身。ICU卒業。ウィスコンシン大学マディソン校東アジア語学・文学学科修士課程修了。日本語アシスタント、南カリフォルニア大学日本語専任講師を経て2013年9月からHIFスタッフ。

いちご、さつまいも、ブルーベリーなどの収穫体験。

●函館市亀尾ふれあいの里

HIFが指定管理者となっている「函館市亀尾ふれあいの里」では、野菜や果物の収穫体験ができます。収穫した作物は規定量をお持ち帰りいただけます。

【栽培作物と収穫体験開始日（予定）】

●収穫体験農園
いちご（6/5～）、トマト（7/17～）、トウモロコシ（8/7～）、枝豆（8/21～）、馬鈴薯（8/28～）、さつまいも（9/25～）

●果樹園
ブルーベリー（7/23～）
※時間はいずれも9:30～17:00（受付は16:00まで）。

【利用料金】

●収穫体験農園 1人1回につき
大人（15歳以上の方、中学生を除く）／600円
小人（3歳以上の小学校就学前、小学生、中学生の方）／300円

●果樹園 1人1回につき
大人（15歳以上の方、中学生を除く）／400円
小人（3歳以上の小学校就学前、小学生、中学生の方）／200円

作物の生育や天候状況により、体験開始日の変更や中止の可能性があります。ご利用の際は、事前にお問い合わせください。

「函館市亀尾ふれあいの里」
住所：函館市米原町126-3（函館空港方面）
管理人直通／080-9008-3859（9:00-17:00）
管理棟／0138-58-1380（9:00-17:00）

北海道のSDGsへの取り組みってどうなっているの？

2015年に「国連持続可能な開発サミット」で採択された、SDGs（持続可能な開発目標）ですが、あらためてSDGsとはどういったことなのか、目標達成のための北海道の現状と課題、そして道南での取り組みなどを紹介するために、HIFは冊子を制作しました。SDGsに関するイベントや講演会などで配布するほか、HIFのホームページでもご覧いただけるように準備中です。興味を持たれた個人・団体の方はぜひお問い合わせください。

地球の未来と北海道の未来のために私たちがすべきこと。
B5版／20頁
問合せ／TEL／0138-22-0770

from H

道南のイベント情報いろいろ。

ふるる函館で地球を旅する。多言語講座

函館市谷地頭町の「ふるる函館（旧谷地頭小学校）」で、年2回実施される「地球を旅する時間『多言語講座』」は2015年にスタートしました。これは世界各国からやって来て、現在函館で暮らしている外国人の方を講師に招き、旅行に役立つ会話の他、その国の生活・文化・習慣、例えば食べ物のことなど、その国のさまざまな話を聞きながら旅の擬似体験をしようというものです。第1期の今回は5か国の言語で開催。韓国、台湾、フィリピン、イタリア、英国（＋英語圏）を巡る旅がはじまります。初めてのかも楽しく受講できますので、ぜひお気軽にご参加下さい。

【日程】

韓国語／申・東煐（シン・ドファン）先生
5/17（水）、6/21（水）、7/19（水）、8/23（水）各回 19:00～20:00

イタリア語／モニカ・ダンジェラントニオ先生
5/28（日）、6/18（日）、7/9（日）、8/20（日）　各回18:00～19:00

台湾語／本出ジェンナ先生
5/28（日）、6/18（日）、7/23（日）、8/20（日）　各回10:30～11:30

フィリピン語／野尻クリセル先生
5/30（火）、6/27（火）、7/11（火）、8/29（火）
各回19:00～20:00

英語／山口・コンコルジャ・シャーロット先生
5/13（土）、6/17（土）、7/22（土）、8/20（日）
各回 14:00～15:00

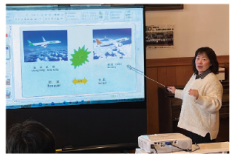
【開催場所】
函館市青少年研修センター　「ふるる函館」

【参加対象】言葉や文化に関心のある方ならどなたでも参加可能。小学生の方も保護者同伴で参加できます。

【定員】各回15名（定員になり次第〆切）

【参加費】1回1,000円

【お申込み】
お電話、又はE-mailでお申込みください。
ふるる函館（函館市青少年研修センター）
0138-23-5961　info@fururu.or.jp
受付／8:45～17:30（月曜日・祝日休館）
お申込みの際に、次の事項をお伝えください。
お名前（E-mailの場合は、併せて「ふりがな」も）・性別・電話番号



函館市電写真コンテスト2023年作品募集

●2022年からスタートした函館の市電をテーマにした「函館市電写真コンテスト」が今年も開催されます。プロアマ問わず、誰でも応募できるこのコンテスト、入賞作品は2024年函館市電カレンダーに掲載されます。「昨年はたくさんの力作が集まり、審査も大変でした」と制作委員会代表で自身もプロカメラマンとして活動する京極寛氏。「今回もおおぜいの方のご応募をお待ちしています」。

【応募締切】
7月20日（当日消印有効）

【審査発表・表彰】
8月（予定）
※市電車両を貸し切って表彰式を開催。

【作品展示】
11月10日（金）～16日（木）
五稜郭タワー・アトリウム
11月18日（土）～29日（水）
函館市地域交流まちづくりセンター
※応募方法や応募用紙の入手など詳細は公式ホームページを。

函館市電カレンダー制作委員会
事務局 / 〒040-0044 函館市青柳町30-7
メール / info@hakodate-tram.com
https://hakodate-tram.com/

昨年の最優秀賞、林 一哉さんの作品。

らまっとガレージセール

●野良犬の保護活動する団体「らまっと」が、函館市入舟町のカフェ「のらいぬ」でチャリティガレージセールを行います。今回の売り上げは野良猫のTNR資金や里親の決まっていない猫の食費・医療費に活用されます。家に眠っている日用雑貨（食器や小型家電）、ハンドメイド作品、飲食店の割引価格での飲食の提供など、参加をご希望の方はお問い合わせを。

【日時】5/21（日）　11:00～16:00
【場所】のらいぬ　函館市入舟町11-3
【お問合せ】らまっと代表
Twitter ダイレクトメール　@hanaginta

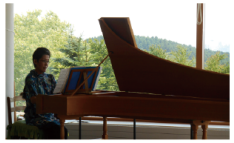
ネイパル森イベントボランティア募集

森町の青少年体験活動支援施設 ネイパル森では、子どもや親子を対象としたさまざまなイベントを開催しています。その運営や活動に、スタッフとして協力・支援してくださるボランティアリーダーを随時募集しています。今年度は12のイベントを予定しています。年齢は高校生以上、国籍は問いません（外国籍の方大歓迎！）。お申し込みはホームページ内のボランティア申込フォームより、登録いただければ都度募集情報をお送りします。

北海道立青少年体験活動支援施設 ネイパル森
茅部郡森町駒ヶ岳657-15
01374-5-2110
http://napal-mori.org/

道立四季の杜公園 初夏のイベント

フォレストビューコンサート　チェンバロ
【日時】5/28（日） 14:00～14:30
【場所】四季の杜公園　丘の家
【出演】森 洋子
PROFILE／福岡市出身。アメリカのチェンバロコンクールで優勝、国立音楽大学で講師をするなど、東京、山梨で活動後、落ち着いた音楽環境を求めて2006年、函館に拠点を移す。



フォレストビューコンサート　マリンバ
【日時】6/18（日） 14:00～14:30
【場所】四季の杜公園　丘の家
【出演】市川須磨子　久保悦子（ピアノ伴奏）
PROFILE／「マリンバはこだて」を主宰し後進の指導にあたりながら、リサイタルシリーズ「マリンバエレガンス」の開催をはじめ、門下生を中心に結成した「アンサンブル木精」とともに文化行事や学校公演など、ソロ・アンサンブル両面で幅広く活動する。

四季の杜ボタニカルフェア
【日時】6/4（日） 10:00～14:00
（小雨決行）
【場所】北駐車場芝生広場
【内容】寄せ植え体験、ヒース挿し木体験、苔玉づくり体験、ボタニカルワークショップ、花苗販売、大野農業高校アンテナショップ、キッチンカー飲食販売、フリーマーケット

［新・山本二三展］

● 独特の詩情あふれる背景世界。

●天空の城ラピュタ、火垂るの墓、もののけ姫、時をかける少女など、数多くの作品に携わってきた日本のアニメーション界を代表する美術監督兼背景画家・山本二三氏の展覧会が道立函館美術館で開催中。本展では、氏がこれまで手がけた背景画のほか、イメージボードや制作用具などを展覧。優れた技術と豊かな感性に裏打ちされたアニメーション美術の世界に触れることができます。

【会期】　**4月29日（土・祝）～ 6月25日（日）**
9:30～17:00（入場16:30まで）　月曜休館
【観覧料】　一般1,300円　高大生800円　中学生500円
※上記料金は当日券。小学生以下は無料。
【場所】　**北海道立函館美術館**　函館市五稜郭町37-6

EDITORS'NOTES

●高校時代、古典の先生が「君たち、日本三景を知っているか。それより美しい風景が君たちの近くにある。それは、大沼国定公園だ」と言われたことが、僕が大沼に住みたいと思ったきっかけになっている。人生はどこからつながるかわからないから面白い。（池田）

●とあるホストファミリー経験者さんのコメント。「ホストファミリーは疑似体験ができる場。自分が20歳で出産していたら、今これぐらいの歳の息子がいたのか。」新年度がスタートし、HIFのホームステイ事業も少しずつ再開していきます。（鍛坂）

●暑いのも寒いのも苦手なので、5月・6月の函館が一番好きです。まだ少し肌寒いですが、短い春楽しみましょう。今年はお花や植物の名前を沢山覚えたいです。（吉田）

●Vol.2のマイホームタウンで、「ウガンダではチンパンジーが道路を横切ることも」と書きましたが、オーストラリアはカンガルーが横切るらしいです。ちなみに、オーストラリアの国土面積は日本の約20倍です！（松田）

●もう10年以上前になるインドネシアで生活した1年の間に、たくさんの子どもと出会いました。宗教も文化も違えば遊び方ももちろん異なります。そんな子どもたちと一緒に遊ぶのが毎日楽しくて仕方なかったなぁ、と当時を思い出しました。（近藤）

●函館に引っ越してきてから間もない間に様々なことを体験している。『以前にもこんなことあったかも?!』、「偶然か必然か」、「運か縁か」問いかけはともかく、それぞれを楽しんで今後に活かしていきたい。（谷川）

●「先生になる」と言って函館に来たはずが、「向いてない」と気づくまで大学に５年、院に２年を費やしました。時は巡って「子どもの居場所」と力説しておりますが、当時の関係者（と両親）には謝りたい気持ちでいっぱいです。ほんとごめんなさい！（福田）

●本誌は今年1月に「HIF PRESS」として創刊しましたが、３号目で早くも誌名を変更し、ページ数も増やしました。これはHIFに関わる情報ばかりではなく、もっと幅広い内容を取り上げようということからです。『地味で堅苦しい内容でも、明るく元気にさわやかに』が編集コンセプト。ページ数はもっと増やして100ページぐらいを目指したいのですが、これは絶対無理ですね。（中村）

編集部からのお願い

●本誌では、イベントやボランティアに関する情報、広告を掲載してくださる企業、そして設置場所を募集しております。広告は基本的に編集部で制作いたします。設置についてはサイズも大きいので敬遠されそうでもありますが、どうかよろしくお願いします。

お問い合わせ／北海道国際交流センター（HIF）
担当／吉田・谷川まで。

設置場所

函館市役所1階市民ホール／函館市各支所／函館市亀田交流プラザ／函館市芸術ホール／函館市地域交流まちづくりセンター／函館市女性センター／函館市青年センター／函館コミュニティープラザGスクエア／函館市中央図書館　他図書館／函館市公民館／函館市総合保健センター／函館市総合福祉センター／七飯町文化センター／北斗市総合文化センター かなで～る／北海道教育大学函館校／金森赤レンガ倉庫（末広町）／北海道国際交流センター／函館YWCA／cafe D'ici（元町）／金子眼鏡店（元町）／はこだて工芸舎（末広町）／cafe tutu（末広町）／cafe & deli MARUSEN（大手町）／Classic（谷地頭町）／夏井珈琲ブリュッケ（五稜郭町）／Pain屋（宝来町）／こなひき小屋（七飯町）／大沼国際交流プラザ（七飯町）／国際交流団体ブロック（七飯町）／LEAVES（北斗市）／木彫り熊と本の店kodamado（八雲町）

2023年5・6月号（隔月発行）
2023年5月1発行

発行人／池田 誠
編集人／中村ひでのり
CLIP HAKODATE 編集室
櫻坂麻規子、松田夏海、吉田 佩、谷川真弓子、近藤愛子、福田琢磨
デザイン／中村事務所

次号は7 - 8月発行です。

禁・無断転載

HIF HOKKAIDO INTERNATIONAL FOUNDATION
（一財）北海道国際交流センター（HIF）
040-0054　函館市元町14-1
TEL. 0138-22-0770　FAX. 0138-22-0660
E-mail: event@hif.or.jp
https://www.hif.or.jp